

45年後の松前町の未来—。 高齢化し、人口は1万人減少…。 子どもたちの未来はどうなる？

松前町でも減少する人口

3万人を超える人口の松前町。しかし、約45年後の2060（平成72）年には、約1万9千人になると推計されています（社人研推計。左下のグラフ）。その内訳も、約4割が65歳以上で、15歳以下は1割以下という推計です。

人口が減少し、高齢化が進むと、▽近所にお店や病院がなくなる▽空き家や耕作放棄地が増える▽学校の統廃合の必要が出てくるなど、私たちの生活に多くの影響を及ぼします。特に、医療福祉の面では、65歳以上の高齢者1人を、現役世代14人（現在は24人）で、同じく、75歳以上を24人（現在は49人）で支える必要があり、負担が大きくなります。

このような悪循環が続くと、まちの存続も危ぶまれるのです。

「人口ビジョン」と「総合戦略」の策定

こうした人口問題などに対応するため、国の地方創生に向けた動きを踏まえながら、町長を本部長とする「松前町まち・ひと・しごと創生本部」を設置。町民をはじめ、産業界、大学、金融機関、マスコミの関係者などで構成する「松前町まち・ひと・しごと創生推進会議」の意見なども踏まえながら、「松前町人口ビジョン」を策定しました。

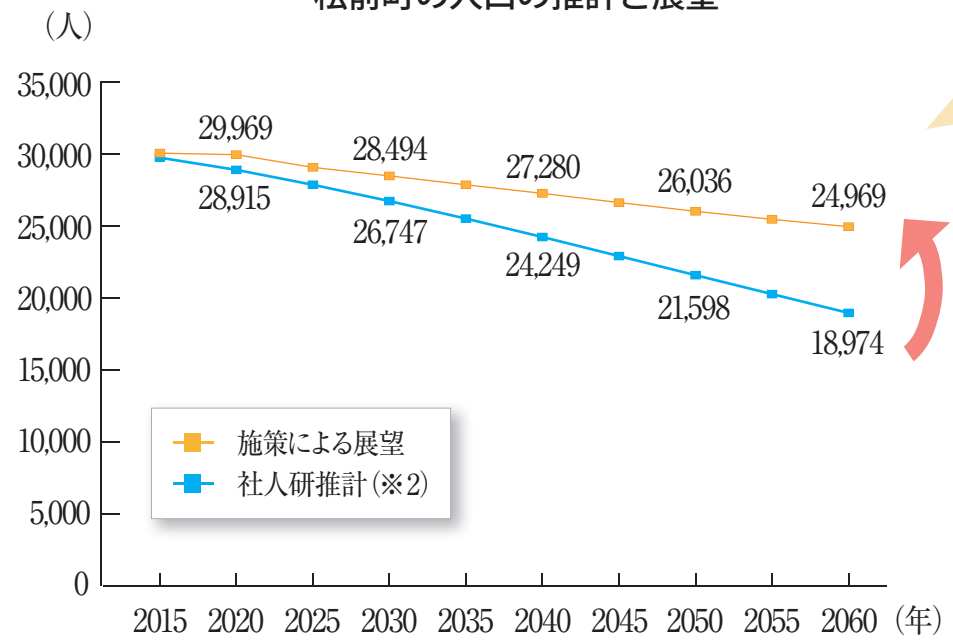
ビジョンでは、人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向として、「子育て支援」「産業振興」「安全・安心で賑わいあふれるまちづくり」を設定。将来、本町に訪れる人口の減少や高齢化の予測を踏まえ、3つの方向性を軸に、まちの強みや特徴を生かした人口減少への対策を進めることとしました。その上で、2060年の人口目標を、約2万5千人に設定しています（社人研推計よりも約6千人増）。

そして、この目標を達成するために、今後5年間の具体的な取り組みを掲げたものが「松前町まち・ひと・しごと創生総合戦略」です。次のページからは、戦略の具体的な内容を紹介します。

3つの方向性で人口減少を抑える

- ① 子育て世代に、住む場所として選ばれる松前町づくり
- ② 産業振興、産業連携による活発で活力ある松前町づくり
- ③ 安全・安心で賑わいあふれる元気な松前町づくり

松前町の人口の推計と展望



人口の展望
2060（平成72）年に
25,000人を確保

今後は…
総合戦略で5年間の取り組みを計画。実行へ

松前町の現状【2010（平成22）年】

低出生率
合計特殊出生率(※1)
1.40 前後の横ばい
(県内でも下位)

高齢化
最も多い年代が
60 歳代

若者の流出
進学・就職で
15~24 歳が流出

このまま何もしないと、45年後は… (社人研推計)

- ▷ 人口が約 19,000 人に減少（H 22 は 30,358 人）
- ▷ 15 ～ 64 歳の比率が 51.6%に低下（H 22 は 61.0%）
- ▷ 65 歳以上の比率は 39%に上昇（H 22 は 25.1%）

人口減少の影響

産業
サービスの提供が難しくなり、買い物弱者が発生。担い手不足で耕作放棄地が増加

子育て・教育
子どもの減少で学校を統廃合。地域コミュニティの希薄化で犯罪などが増加する危険

医療・福祉
高齢者を支える現役世代の減少で、医療・福祉サービスの負担が増える



※2「社人研推計」 厚生労働省の研究機関「国立社会保障・人口問題研究所」が都道府県・市区町村別に公表した将来推計人口値(2040年まで。以降は同推計に準拠)



総合戦略の取り組みを実行して
松前町の子どもたちの未来と笑顔を守る

◆ 特集 松前町まち・ひと・しごと創生《人口ビジョン》《総合戦略》 新しいまちづくりへの挑戦

本町でも人口減少に対応していくため、2月に人口ビジョンと総合戦略を策定しました。松前町の地方創生はどのようなものなのか。今回の特集で現状に迫ります。

※1「合計特殊出生率」 一定期間での女性の年齢別の出生率を合計したもので、1人の女性が生涯に生む子どもの数を近似する指標

Pick up 事業のうち、平成 28 年度の予算に計上されているいくつかの事業をピックアップしました。

保育施設



安心して子どもを預けることができる環境整備 「松前・宗意原統合保育所」新設へ

松前保育所と宗意原保育所（現在休園中）は、施設の老朽化が進んでいます。また、施設が立地している場所は、大規模災害時に津波浸水被害の危険区域に指定されています。

そこで、両園を新たな場所へ統合新設します。28 年度の予算では、新築工事の設計委託にかかる費用を計上。安心して子どもを預けることができるよう整備を進めます。

女性の意見を反映したまちづくり

地域で子どもを育てる環境づくり / 「行ってみたい・住んでみたい・住んでよかった」と思ってもらえるまちづくり（P 7）

まちづくり女性会議を開催します

「女性の視点や感性を町政に生かしたい」

町長と女性の皆さんがまちの未来について話し合う「まちづくり女性会議」を初めて開催します。会議では、「おしゃれなまちづくり」や「子育てについて」など、毎回テーマを決めて自由に話し合います。

ぜひ、この機会に皆さんの思いをまちに届けてください。

- ▶対象者 町内に在住・在勤する 18 歳以上の女性
- ▶定員 20 人程度 ※応募多数の場合は抽選。報酬はありません。
- ▶内容 テーマごとのフリートーク（10 月までに全 3 回。19 時以降に開催）
- ▶申し込み方法 参加申込書に必要事項を記入の上、郵送、メールするか、窓口提出してください。申込書はホームページからダウンロードできるほか、窓口で配布しています。
- ▶申込期間 4 月 4 日⑥～ 4 月 28 日⑥
- ▶申込先・問い合わせ 総務課企画政策係 ☎ 985—4103
〒791-3192 伊予郡松前町大字筒井 6 3 1 番地

子どもの医療費



子育て世帯の経済的支援の充実 義務教育期間の医療費を完全無料化へ

現在、7 歳誕生日前日までの外来医療費助成を、中学校卒業まで拡大します（中学生の入院費用の助成は平成 26 年 4 月診療分から実施。）拡大により、「安心して子どもを生み育てることができるまちづくり」を進めます。

開始は、29 年 1 月を予定しています。詳細が決まり次第、広報やホームページなどでお知らせします。

CHECK 参加者募集



女性の声でまちは変わる。

基本目標 1

子育て世代に、住む場所として 選ばれる松前町づくり

子どもの幸せが尊重され、将来子どもを持つ世代が安心して子どもを生み育てられるよう、切れ目のない支援を行い、将来にわたって安定した人口を維持していきます。

●成果目標 出生数 ^{up} 21 人
215 人（H 31）← 194 人（H 26）

●目標達成のため行う施策と取り組み ※主な事業のみ掲載。★印は、施策の成果指標です。

結婚・妊娠・出産・子育ての 切れ目のない支援

施策 1

- 大型商業施設などを活用した出会いの場の創出
婚活イベントなどの実施（★H 31 までに 4 回）
- 子育てコンシェルジュ事業
適切な子育て支援事業が選択・利用できるよう支援する
- 中学生と赤ちゃんのふれあい教育

地域で子どもを育てる 環境づくり

施策 3

- まちづくり女性会議の開催
女性の意見を反映した子育て施策の実施
- 子育てサロン開設支援事業（★H 31 までに 3 カ所開設）
- 子どもの遊び場づくり（★H 31 までに新規遊具 5 カ所）
コミュニティ広場や公園などの遊具を整備する

安心して子どもを 預けることができる環境整備

施策 2

- 安心して子どもを預けられる環境整備
認可保育所・幼稚園などの整備（★H 31 までに 3 カ所）
- 放課後児童クラブの整備（★H 31 までに 3 カ所）
- 保育サービスの充実 体調不良児の預かりなどの実施

子育て世帯の 経済的支援の充実

施策 4

- 小・中学生の医療費助成
小・中学生の外来医療費の助成を拡大する
（★医療費無料対象数 約 2,000 人（H26）→ 約 4,200 人（H 31））

Interview

●町民の皆さんに、戦略で期待することなどを聞きました

「安心して子どもを預けられる環境整備」については、幼稚園に通う子どもも預けられる「認定こども園」を建設してほしいと感じています。フルタイム勤務だと近くに預けられる人もなかなかいないです…。周りの子育て中のお母さんも、子どもを見ながら手の空いた時間に働くことができれば、「もう 1 人子どもを生みたい」と話している人もいます。国や県ではなく、松前町の状況を見て子育て支援を考えてほしいと思います。

あと、私の子どもは幼稚園に通っていますが、駐車場が減ってしまい、昨年からはドライブスルーの形で送迎しています。すると、お母さんたち

との交流の時間が減ってしまって…。悩みを相談できたり、子育てを助け合えたりするお母さん友達を作ることは、子育てをしていく上で大切です。自分から知らない人のところに行って出向くには、勇気がある人もいます。幼稚園や学校など、身近な場所でお母さんが交流できる機会を確保してほしいと思います。



宮内麻里さん＝北黒田＝

キーワード
防災・移住定住・高齢者・広域連携

●目標達成のため行う施策と取り組み ※主な事業のみ。

安全・安心なまちづくり

施策1

- 消防団詰所の整備（★H31までに1カ所）
- 移動系防災行政無線のデジタル化
災害時の情報収集・伝達体制を充実する

「行ってみたい・住んでみたい・住んでよかった」と思ってもらえるまちづくり

施策2

- まちづくり女性会議の開催（再掲）
（★H31までに会議の意見による事業を10事業実施）
- SNSを活用した広報活動の推進
- 進学等で県外に出た若者の地元回帰支援
県が行う地元回帰セミナーとの連携・協力を行う

元気で生き生きと暮らせるまちづくり

施策3

- 地域包括ケアシステムの構築
医療・介護・予防・住まい・生活支援などのサービスを一体的に提供できるシステムの構築を進める
- 生涯活躍人材バンク（仮称）の設置
高齢者が、長年培った専門的な知識や技術、経験などを生かして活躍できる人材バンクを設置する
（★H31までに50人登録）



Target 3

基本目標 3

安全・安心で賑わいあふれる元氣な松前町づくり

住民が安心して暮らすことができ、
将来にわたって賑やかで元氣なまちをつくります。

●成果目標 人口の社会増減数 ^{up} ↑128人
200人 ← 72人
(H27~31) (H22~26)



interview

戦略に期待すること
山内多賀子さん = 徳丸=

独居高齢者の人たちが外に1歩踏み出せる機会と、踏み出せるように支える人たちを多くつくる体制づくりが大切だと思います。昨年、町の事業をお手伝いする機会があったのですが、独居高齢者の人たちが交流することで、家に帰っても散歩できるようになるなど、みんなが支え合い前向きになっていく様子が実感できました。その事業は終わりましたが、今後も支え合える機会が多くあればと思います。

広域連携による活力あるまちづくり

施策4

- 連携中枢都市圏の形成
近隣の市町と広域連携することで、コンパクト化とネットワーク化を図り、人口減少・少子高齢化が進んでも、活力ある社会経済を維持するための拠点をつくる（★H31までに50項目を連携）



キーワード
農業・水産業・商業・工業

●目標達成のため行う施策と取り組み ※主な事業のみ。

一次産業の担い手確保・育成と経営体の育成支援

施策1

- 認定農業者・農業生産法人の育成
担い手の育成を進め、生産体制を強化する

企業誘致の促進

施策2

- 工業団地の整備（★H31までに1件着手）
伊予市下三谷工業団地と大谷川に挟まれた農地を工業団地として整備し、優良企業を誘致する



南黒田地区にある農地。東に伊予市三谷工業団地、西に大谷川が広がっている

地場産業の活性化

施策3

- MASAKI BRAND 事業（★H31までに3商品）
松前オリジナルの全国展開可能な商品を開発する
- 多様な連携による6次産業化の推進
1次産業の経営者を支援し、各種団体との連携を強めることで、生産・加工・販売までの6次産業化を進める

Target 2

基本目標 2

産業振興、産業連携による活発で活力ある松前町づくり

農・水・商・工など、それぞれの分野における雇用機会の確保や創出を図るとともに、各分野の垣根を越えた連携を図ることにより、活発で活力あるまちを実現します。

●成果目標 従業者数 ^{up} ↑660人
13,854人 (H31) ← 13,194人 (H24)



interview

戦略に期待すること
岡井武彦さん = 南黒田=

人口減少に歯止めをかけ、生き生きとした町にしていけるためには、若者たちの地元定着に向けた「しごとと創生」が不可欠です。そのためにも、従来からの地場産業の育成・強化に加え、新規施策で「環境にやさしい企業の誘致」を図り、若い人々の雇用促進することが求められます。そうすることが、町税収入増（町財政基盤強化）→子育て世代支援の諸方策に取り組んでいける道筋だと思っています。

45年後の松前町の未来を変えるのは、「まち」と「私たち」。



松前町まち・ひと・しごと創生推進会議
会長 中島敏之さん

「ずっと松前町に住んでいましたが、合併もせず頑張っているし、東レもあってエミフルもできたので、松前町は大丈夫だと思っていました。でも、いざ会議に携わって人口が減少していく様子を見ると、まちのことがリアルに感じて…」
このように話すのは、「松前町まち・ひと・しごと創生推進会議」で会長を務めた中島敏之さんです。皆さんも同じように感じてはいないでしょうか。
その思いを、推進会議では声にして意見を集結させ、総合戦略に反映させていきました。「自分にはない目線の意見も多かった」と中島さんが振り返るように、さまざまな分野の意見が盛り込まれたものとなっています。
このようにまちと住民の皆さんが協力して策定した総合戦略。「子育てサロンをつくる」「MASAKI BRANDを開発する」「住民が参加する『まちづくり女性会議』の意見による事業を実施する」など、さまざまな目標を掲げていますが、達成するためには、より多くの住民の皆さんの協力が欠かせません。
「地元で花を咲かせたいという思いはみんな同じ」と中島さんは話しています。一人一人の心にあるまちへの思いも、内に秘めたままでは、何も変わりません。まちの「誰か」ではなく、まちの「私たち」がという思いで、まちの未来を変える取り組みを、一緒に始めませんか？